

別紙1-1

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 大原 聖子

論 文 題 目

Social support helps protect against perinatal bonding failure and depression among mothers: a prospective cohort study

(周産期女性のソーシャルサポートはボンディング障害と抑うつ状態に対して保護的な働きを持つ：前向きコホート研究を用いた検討結果)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員

小川 豊昭



名古屋大学教授

委員

志川 史隆



名古屋大学教授

委員

高橋 義行



名古屋大学教授

指導教授

尾崎 幸子



論文審査の結果の要旨

今回、既に報告者が標準化したボンディング障害（母親から子へ向けた愛着形成の問題）の評価尺度である Mother-Infant Bonding Questionnaire (MIBQ)を用い、周産期女性が感じるソーシャルサポートの有無が、ボンディング障害及び抑うつ状態に与える影響について、前向きコホート研究によるデータを対象として継時的なパスモデルを作成し、共分散構造分析を用いて検証した。その結果、周産期女性が感じている妊娠中のソーシャルサポートの提供者の数と満足度の双方が、産後のボンディング障害と抑うつ状態に対して保護的な働きを持ち得ることが明らかになった。今回の結果から、周産期のボンディング障害と抑うつ状態に対し妊娠期から早期介入を検討する際には、ソーシャルサポートの提供者の数と満足度の双方に焦点をあてる介入が有効である可能性が示唆された。





本研究に対し、以下の点を議論した。

1. ボンディング障害と関連する要因の1つとして抑うつ状態が報告され、相互の関係性を明らかにすべく検討されてきたが、因果関係は未明確である。本研究の結果では産後のボンディング障害は妊娠中の抑うつ状態の予測的影響を受けず、また産後の抑うつ状態は妊娠中のボンディング障害の予測的影響を受けなかった。
2. 妊娠期の抑うつ状態がその後認識するソーシャルサポートの減衰の予測因子となり得るという報告がある。本研究でも別モデルを作成し検証した。しかし適合度とAICを用いて比較した結果、今回のモデルが優れていた。また、妊娠中のソーシャルサポートの提供者の数が産後の抑うつ状態に保護的に作用するという報告がある。本研究では、妊娠中のソーシャルサポートの数と満足度の双方が産後のボンディング障害と抑うつ状態に対し保護的に作用するという結果であった。
3. 本研究ではボンディング障害の2つの下位尺度のうち、Lack of Affection（愛情の欠如）は妊娠中から産後にかけて有意に減弱を示した。一方 Anger and Rejection（怒りと拒絶）は妊娠中から産後にかけて有意に増強を示した。共分散構造分析を用いた検証では、ボンディング障害は妊娠中から産後にかけて正方向の予測的影響を受けた。
4. ボンディング障害と抑うつ状態には様々な関連要因が報告されている。今後の研究において更に複数の要因を含めた検討が課題である。共分散構造分析は、複数の変数の因果関係を一度に解析可能であり、各予測の有意性と強さを比較できる。一方で多重共線性やモデルの恣意性という解析上の限界がある。

本研究は、周産期のボンディング障害と抑うつ状態に対し、予測因子を同定し有効な介入方法を確立する上で、重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	大原聖子
試験担当者	主査	小川 孝昭  吉川 史隆  高橋 義行 		
	指導教授	/ 三浦 幸三 		
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ボンディング障害と抑うつ状態の関連について 2. 抑うつ状態とソーシャルサポートの関連について 3. ボンディング障害の継時的変化について 4. ボンディング障害と関連要因に関する研究の今後の課題について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、精神医学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				